

# きじむんの どう〜ちゅんばにい〜 第3回

## 龍宮へ行った稲福婆

キーワード：『遺老説伝』 棚原の上又嶽



はいさい！きじむんやいびーん。

琉球・沖縄の怪奇話3回目です。今回は琉大からも近い西原町棚原のお話を紹介します！



西原町棚原の上又嶽(5月23日執筆撮影)

西原町棚原に上又嶽たなはら イーヌウタキという御嶽があるのを知っていますか？実はここに龍宮伝説があるのです。その話は「稲福婆いなふくばあ」の話として『遺老説伝いろうせつでん』という書物に登場します。次のような話です。

昔、西原間切棚原村に稲福婆というノロがいた。ある日、他のノロと上又嶽で神遊びしていたところ、稲福婆だけが姿を消してしまった。

三年後、我謝村かじやうふしゆの鍛冶屋大主という人が釣りをしていると、頭の毛は禿げて体中に貝殻の付着した人が漂っているのを見つけた。鍛冶屋大主はその人を助け、すぐに重湯を飲ませたが、話はできなかった。多くの人が集まり、家族の者も見に来たが、誰なのかはわからなかった。しばらくしてその人は、「私は稲福婆です。偶然、海底の龍宮へ行きましたが、食べ物として頂戴したのは貝ばかりでした」と言った。そして黄色いものを吐いた。以来人々は彼女を儀来婆と称するようになった。龍宮のことを儀来河内と称したのでそう名付けたのである。

彼女の家族は龍宮のことを尋ねたが、嫌がって話してはくれなかった。王も彼女を城に招いたが、集まっていた多くの人々の好奇のまなざしに、彼女は腕を両脇に挟むや再び姿を消してしまった。そして上又嶽で発見された。彼女は八十余歳で亡くなったという。これは16~17世紀の話とされている。

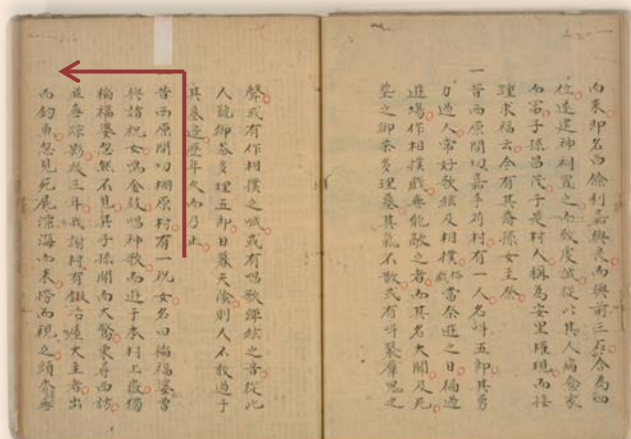
貝ばかりを食べて、帰ってからも龍宮のことを話したがるなんて、稲福婆にとって龍宮は魅力的なところじゃなかったのかな！？

この話を伝える『遺老説伝』は、歴史書『球陽』の外巻として編纂され、18世紀前半に成立した説話集です。本編には収められなかった、古老による説話を141項目(142話)収録しています。『遺老説伝』には複数の写本が残っていますが、当館はこのうち次の3種を所蔵していますよ。

- ①伊波普猷文庫 No.13 3冊本(巻三欠)
- ②伊波普猷文庫 No.14 4冊本
- ③宮良殿内文庫 No.26

当館ではこれらの資料の画像をインターネット上に公開し、広く利用に供しています。画像だけでなく解説もありますよ。最近ではスマートフォンやタブレット端末でも閲覧が可能になりました！

図書館HPにある左のバナーからは是非アクセスしてみてくださいね。(CY)



琉球大学附属図書館伊波普猷文庫所蔵『遺老説伝 巻三』  
デジタルアーカイブより伊波文庫014(3)の8~9コマ



参考文献：島袋盛敏『球陽外巻遺老説伝』、学芸社、1935年、80~81頁  
『琉球民話集』、琉球史料研究会、1969年(初版1960年)、196~197頁  
小原猛・三木静『琉球妖怪大図鑑 上』、琉球新報社、2015年、58~59頁

☞書き下し文あり  
☞口語訳あり  
☞想像図あり